

学生の宗教意識と教育的環境

溝 口 靖 夫

〔研究目的〕

昭和36年夏前に本大学文学部社会科学研究室では文部省の科学研究助成金による「日本の女子知識階層の意識形態^{注1}についての実証的研究」の一部として、「キリスト教主義女子大学学生の宗教意識についての実証的研究」という共同の研究を行なったが、その調査対象は神戸女学院大学等四つの女子大学のそれぞれ一年から四年までの学生であった。その後4年たって、当時の新入学生が最上級に進んだので、昭和40年3月、卒業前に四大学中、特に神戸女学院大学のみについて、四年前と同じ形式の問題で調査した。ただ質問の範囲は、特に彼等の宗教意識の変化を測定するに適するものを選び、彼らがキリスト教主義女子大学という一箇の宗教的教育環境の中にあつて、その宗教意識が、四年間にどのように変つたか変らなかつたかを観察したいというのが本研究の主たる目的である。

〔調査方法〕

昭和40年3月卒業直前、各学科ごとに質問紙による悉皆調査の仕方で実施した。回収率は次のとおりである。

調 査 対 象		票 数	回収票数	回 収 率
文 学 部	英 文 学 科	88	49	55.7
	社 会 学 科	72	56	77.8
	家 政 学 科	49	47	95.9
音 楽 学 部		21	19	91.0
計		230	171	74.4

〔調査の結果に関する資料〕

前回の調査では家庭的宗教環境の調査も質問に加えたが、今度は在学中の学生の宗教意識の変化に重点を置いたため、これを省略した。

以下、先ず、得られた調査の結果を、入学直後と卒業直前との比較において示したい。

F3 あなたの宗教は

Table 1	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. キリスト教 新教を受洗	19	10.4	25	14.6
2. " " 求道中	29	15.9	12	7.0
3. " 旧教を受洗			2	1.2
4. " " 求道中	2	1.1	1	0.6
5. " 無教会派			2	1.2
6. キリスト教以外の宗教の信者	1	0.6	1	0.6
7. " の求道中			1	0.6
8. 関心はあるが信じている宗教なし	101	55.5	118	69.0
9. 宗教は信じない 無神論者	15	8.2	8	4.7
0. その他（具体的に ）	15	8.2		
NA （無答）			1	0.6
計	182	99.9	171	100.1

R7 あなたはこの大学におけるキリスト教主義教育に対して一般的にどう感じますか

Table 2	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 大変喜んでいる	24	13.2	20	11.7
2. 結構だ	86	47.2	111	64.9
3. 別に何とも感じない	41	22.5	24	14.0
4. 余り嬉しくない	25	13.7	7	4.1
5. 反対	2	1.1	2	1.2
6. 解らない	4	2.2	6	3.5
NA			1	0.6
計	182	100.0	171	100.0

R 8 あなたはあなたの自由時間に聖書を開いてみるがありますか

Table 3	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 暇があれば絶えず聖書を読む				
2. 暇があればときどき聖書を読む	19	10.4	18	10.5
3. 時には聖書を開いてみることもある	87	47.8	70	40.9
4. 殆んど聖書を開くことはない	76	41.8	83	48.5
計	182	100.0	171	99.9

R 9 あなたは最近学校での礼拝にはよく出席しますか

Table 4	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 週4回以上は出席	24	13.2	10	5.8
2. 週3回位は出席	158	86.9	35	20.5
3. 週2回位は出席			67	39.2
4. 週1回位は出席			35	20.5
5. 殆んど出席しない			24	14.0
計	182	100.1	171	100.0

R 10 あなたは最近日曜日には教会に行きますか

Table 5	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 月三回以上は出席	49	26.9	23	13.5
2. 月1回以上出席	54	29.7	13	7.6
3. 数ヶ月に1回出席	19	10.4	20	11.7
4. 全然出席しない	60	33.0	115	67.2
計	182	100.0	171	100.0

R12 あなたは人生を支配しているものは何であると思いますか

Table 6	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 人生は神の支配や神の摂理によって導かれる	38	20.9	30	17.5
2. 人生は人間の力を超えた運命によって導かれる	53	29.1	51	29.8
3. 人生とは個人の能力と努力によって殆んど決定されるものである	64	35.1	37	21.6
4. 人生は神の摂理や超越者によって導かれることがある	12	6.6	30	17.5
5. 人生を支配するものは主として (具体的に であると思う)	13	7.1	14	8.2
NA	2	1.1	9	5.3
計	182	99.9	171	99.9

R13 キリスト教は人間を救済する宗教と言われていますが次に掲げるものから一つを選んで○印をつけて下さい。

Table 7	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. キリスト教のみが真に救いの宗教である	18	9.9	17	9.9
2. キリスト教もまた人間を救済する宗教の1つである	130	71.4	130	76.0
3. キリスト教では人間を救済することが出来ない			1	0.6
4. 宗教(キリスト教を含む)では人間を救済することが出来ない	10	5.5	5	2.9
5. 解 ら な い	22	12.1	17	9.9
NA	2	1.1	1	0.6
計	182	100.0	171	99.9

R15 あなたは将来自分の子供をキリスト教主義学校へ入れたいと思いますか

Table 8	入 学 後				卒 業 前			
	男 の 子		女 の 子		男 の 子		女 の 子	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. ぜひキリスト教主義学校へ入れたい	6	3.3	32	17.6	2	1.2	28	16.4
2. なるべくならキリスト教主義学校へ入れたい	76	41.8	107	58.8	85	49.7	107	62.6
3. キリスト教主義学校に入れたくない	67	36.8	20	11.0	60	35.1	20	11.7
4. どんなんことがあってもキリスト教主義学校には入れない	6	3.3	1	0.6	3	1.8		
5. そ の 他	27	14.8	22	12.1	3	1.8	2	1.2
NA					18	10.5	14	8.2
計	182	100.1	182	100.1	171	100.1	171	100.1

R16 あなたは結婚の相手を選ぶ時、キリスト教徒であることを条件としますか

Table 9	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. キリスト教信者であることを絶対条件とする	2	1.1	2	1.2
2. キリスト教信者であることが望ましい	20	11.0	22	12.9
3. 必ずしもキリスト教信者でなくてもよい	116	63.7	96	56.1
4. キリスト教信者でない方がよい	37	20.3	43	25.1
5. キリスト教信者は絶対に避けたい	3	1.7	2	1.2
NA	4	2.2	6	3.5
計	182	100.0	171	100.0

R17 受洗をめぐってあなたに最も影響を与えた人は誰ですか

(信者と未信者全員を含む)

Table 10	受洗をすすめる<る>人		受洗に反対<する>人	
	入 学 後	卒 業 前	入 学 後	卒 業 前
	N	N	N	N
1. 父		1	10	8
2. 母	3	1	14	13
3. 家 族	1		2	3

4. 親 戚		1		1
5. 友 人	4	9	1	1
6. 学校の先生	5	5		
7. 教会(先生・会員)	26	24		
8. そ の 他		4	2	
9. な し		31		50
計 ※	39	76	29	76

※ 1人で2つ以上答えた人がいるので計と回答者実数とは必ずしも一致しない。それゆえ%を略し、またNA（無解答）数は除外した。

R18 あなたの両親は学校におけるキリスト教主義教育に対してどのようにお考えになっておられますか

Table 11	入 学 後				卒 業 前			
	父		母		父		母	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 大変喜んでおられる	12	6.6	20	11.0	12	7.0	16	9.4
2. 結構だと思っておられる	71	39.0	107	58.8	51	29.8	78	45.6
3. 無 関 心	82	45.1	41	22.5	83	48.5	66	38.6
4. 余り喜んでおられない			8	4.4	2	1.2	2	1.2
5. 反対しておられる	1	0.5						
6. その他（具体的に）							1	0.6
7. 解らない					10	5.8	5	2.9
NA	16	8.8	6	3.3	13	7.6	3	1.8
計	182	100.0	182	100.0	171	99.9	171	100.1

R20 あなたの両親は教会へ出席するように学校が奨励することをどのようにお考えになっておられますか

Table 12	入 学 後				卒 業 前			
	父		母		父		母	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 大変喜んでいる	9	4.9	13	7.1	8	4.7	11	6.4
2. 結構である	48	26.4	71	39.3	31	18.1	46	26.9
3. 無 関 心	87	47.8	68	37.3	97	56.7	87	50.9
4. 余り喜ばない	11	6.0	12	6.6	8	4.7	12	7.0
5. 反対しておられる（具体的に）					1	0.6		

6. その他（具体的に）	1	0.6	2	1.1	2	1.2	3	1.8
7. 解らない	13	7.1	10	5.5	10	5.8	8	4.7
NA	13	7.1	6	3.3	14	8.2	4	2.3
計	182	99.9	182	99.9	171	100.0	171	100.0

R22 あなたの両親はあなたが洗礼を受ける場合にはどんな態度を示すと思われますか

Table 13 A 信者の場合	入 学 後				卒 業 前			
	父		母		父		母	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 賛 成	7	36.8	10	52.6	14	51.9	17	63.0
2. 無 干 渉	6	31.6	2	10.5	7	25.9	3	11.1
3. 反 対	3	15.8	6	31.6	4	14.8	7	25.9
4. 解らない	2	10.5			2	7.4		
NA	1	5.3	1	5.3				
計	19	100.0	19	100.0	27	100.0	27	100.0

Table 13 B 未信者の場合	入 学 後				卒 業 前			
	父		母		父		母	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 賛 成	15	9.2	21	12.9	14	9.7	23	16.0
2. 無 干 渉	60	36.8	62	38.1	64	44.4	55	38.2
3. 反 対	61	37.4	62	38.1	45	31.3	54	37.5
4. 解らない	2	1.2	2	1.2				
NA	25	15.3	16	9.8	21	14.6	12	8.3
計	163	99.9	163	100.1	144	100.0	144	100.0

R27 あなたはお宅の近くにある神社や仏閣に参拝したり祭礼にお参りすることがありますか

Table 14	入 学 後				卒 業 前			
	神 社		寺 院		神 社		寺 院	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. お宮やお寺にお参りしない	71	39.0	72	39.6	71	41.5	71	41.5
2. 信仰の上で参拝する					2	1.2	2	1.2
3. 敬意を表するために参る	7	3.8	8	4.4	7	4.1	9	5.3

4. 慣習として参る	42	23.1	17	9.3	52	30.4	34	19.9
5. 家族や近所のつきあい で参る	12	6.6	9	4.9	29	17.0	33	19.3
6. 家族のものからいわれ るので参る	8	4.4	8	4.4	3	1.8	1	0.6
7. 近所や地域の人からい われるので参る					1	0.6		
NA	42	23.1	68	37.4	9	5.3	21	12.3
計	182	100.0	182	100.0	171	※ 101.9	171	100.1

※ 1人で1つ以上の答えをした人があるので%の合計は100以上になった。

R28 あなたのキリスト教信仰について最も有力に影響を与えてくれているものは次のどの項目ですか

Table 15	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 家 族 の 奨 励	4	2.2	2	1.2
2. 学校の教師の奨励	59	32.4	42	24.6
3. 親しい友人のすすめ	15	8.2	4	2.3
4. 教会の先生の奨励	19	10.4	8	4.7
5. いろいろな影響から自分自身でよく考える	43	23.6	82	48.0
6. ラジオ・テレビ・雑誌・書物など	1	0.6	1	0.6
7. その他（具体的に）	3	1.7	5	2.9
NA	38	20.9	31	18.1
計	182	100.0	171	※ 102.4

※ 1人で1つ以上の答えをした人があるので%の合計は100以上になった。

R29 あなたが若しキリスト教の信仰をもっている場合には何がその動機になりましたか。一番有力な動機と思われるものに○印をつけて下さい。

Table 16	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 人間形成のために	20	11.0	20	11.7
2. 自分の病気や不幸との体験を通じて	2	1.1	1	0.6
3. 友人や近親者の死や不幸に直面して				
4. 何か永遠的なものをつかみたい気持ちから	10	5.5	15	8.8

5. 自分の弱さ又は罪を自覚しそれから救われるため	22	12.1	22	12.9
6. 新しい時代に対応する精神として	1	0.5	1	0.6
7. 家庭的雰囲気から	2	1.1	5	2.9
8. 学校の雰囲気から	17	9.3	11	6.4
9. その他（具体的に）	3	1.7	5	2.9
NA	105	57.7	94	55.0
計	182	100.0	171	※ 101.8

※ 1人で1つ以上の答えをした人があるので%の合計は100以上になった。

R30 あなたはキリスト教の精神を多くの人びとに分ち与えるために出来るだけ貢献したいと思いますか

Table 17	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 貢献したい（例えば教会・学校教師・保母・子供会のリーダー等）具体的な希望があれば書いて下さい	62	34.1	52	30.4
2. 別に何とも思わない	100	54.9	95	55.6
3. 寧ろ反対である	1	0.6	4	2.3
NA	19	10.4	20	11.7
計	182	100.0	171	100.0

R31 あなたは現在のキリスト教があなたと社会にとって何か意義があると思いますか

Table 18	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. あると思う	96	52.7	123	71.9
2. 殆んどあるとは思わない	48	26.4	33	19.3
3. 全くないばかりか、かえって有害だ	1	0.6		
4. そ の 他	6	3.3	7	4.1
NA	31	17.1	8	4.7
計	182	100.1	171	100.0

R32 あなたは現在のキリスト教に何を望みますか。最も必要と思われることを一つ選んで○印をつけて下さい

Table 19	入 学 後		卒 業 前	
	N	%	N	%
1. 具 体 的 に	45	24.7	90	52.6
2. 何も望むことはない	91	50.0	47	27.5
3. そ の 他	15	8.2	12	7.0
NA	31	17.0	22	12.9
計	182	99.9	171	100.0

〔分 析 解 釈〕

前回の調査においても新入生と四年生との比較（民主化の度合の調査）、又は新入生と上級生の比較（宗教意識の調査）がなされたが、これは新入生と上級生との同時的調査であった。これに対して今般のものは、当時の新入生自身が卒業級となったときのものであることに特色がある。もちろん前回と今回の回答者は全員ではなかったから厳密には前回の回答者と今回の回答者の間には人的に若干の違いもあるであろうが、大多数のものは同じ学生であったであろうから、大体の意識の変化の測定は可能であると考えてよい。上に掲げた資料の一つ一つについては、特に分析又は解釈を要しない程明瞭なものが多いが、念のためこれらについて概観したい。

F 3 自分の宗教

ここでは4年間に受洗した信徒の数は10.4%から14.6%にふえている。反対に求道者の数は15.9%から7.0%に減っているが、入学時の求道者の若干名は在学中に信仰が進んで洗礼を受けたと考え得る。プロテスタントに比してカトリックの増加率が低いのは、本学がプロテスタンティズムの教育に立っているからで自然のことであろう。そして、入学時の無神論又はその他というのが減って、関心はあるが入信まで至っていないものの数がふえたことは、宗教的影響を与えたことを示す。

R 7 キリスト教主義教育に対する感じ

入学時よりも(1)大変喜んでいるものの数は減り、(2)結構だと考えているものはふえている。(1)と(2)とを加えると、入学時が60.4%、卒業時が76.6%で、宗教的教育に対して好感を増しており、余り嬉しくないというのも、13.7%から4.1%に減っている。

R 8 自分で聖書を読む

学校では毎週一回のキリスト教学の授業があり、毎朝の礼拝でも聖書を読む機会があるが、自発的に独りで読むものの数が「絶えず」は零であるが、「ときどき」又は「時には」というのが上級の方で多少減っているとはいえ、依然として半数以上であるのは聖書に対する信頼感を表わすものと思う。

R 9 学校の礼拝への出席

大学の方針としては毎朝の礼拝には強制ではないが、学生の本分として出席が強く要求されている。しかし調査の結果に現われているように、出席率は新入生の方が上級生よりも高いことを示している。特に卒業近くなると、授業時間数も少くなり、又、卒業論文作製などのことも影響し、出席率の低下を招くのであろう。

R10 教会への出席

本学院では中高・大学とも、日曜日には進んで教会に出席することが奨励されており、それと関連して土曜日が休業となっているが、それにも拘らず、新入生時代と上級になってからと較べるならば出席率は低下している。このことは、彼らのキリスト教自身に対する興味の減退によるよりは、むしろ学校の教会出席奨励に対する新入生と上級生との受け取り方の心理的な違いによるものであろう。

R12 人生を支配する力

ここで可成り顕著なことは、四年間に、個人の能力や努力の限界を認めるようになったことである。人生は個人の能力と努力によって殆んど決定される、というのが入学直後の35.1%から卒業前の21.6%に減じている。これに反して、何らかの意味で超越的な力を考えるものが(1)と(2)と(4)を加えたものとして、56.6%から64.8%に増大し、更にこれをより詳しく見れば、(2)の運命的な

力というかなり仏教的なニュアンスのある人生の考え方をするものが29.1%から29.8%と幾分上昇し、かなりキリスト教的な響きのある人生観をもつものとして、(1)+(4)を見ると27.5%から35.0%へとふえていることが分かる。洗礼を受けるものの数はさほどでないが、キリスト教的人生観の影響を受けているものが新入生の時より卒業生においてふえているわけである。ここで、(5)の「その他」の力を考えるものとしては、「運命と努力と能力」が9名、その他「愛」「環境と意志と超自然」というのが各1名であった。

R13 キリスト教の救済性

(1)のキリスト教のみが真に救いの宗教であるというのは、はしなくも入学直後と卒業前と共に9.9%で同率であり、(2)キリスト教もまた人間を救済する宗教の一つであるというのが71.4%から76.0%に上っている。そしてキリスト教の救済性を否定する立場(3)と(4)とは極少である。ここにもキリスト教に対する信頼性が増し加わったことが示されている。

R15 将来子供をキリスト教主義学校へ

ここでは学生のキリスト教主義教育に対する評価又は感情がかなりはっきり出ていると思うのであるが、四年間の学窓生活の後に、これを肯定するものの数が圧倒的に多いことは注目すべきことである。尤も男の子の場合と女の子の場合は多少事情を異にする。男の子の場合には精神的人格教育以外の要素が考慮されているのであろう。女の子の場合より希望が少ない。又、(1)の「子供をぜひキリスト教主義学校へ入れたい」の「ぜひ」というのが入学時より卒業時に少し減っているのは、単なる理想主義的な考え方でなく、現実の事情を考えるゆとりある立場をとるようになったためであろう。又、卒業前のものの「その他」の中には「子供の意志にまかせる」「その子の能力による」「キリスト教主義を身につけさせたいが、私立学校へは行かしたくない」等というのがその内容になっている。

R16 結婚の相手としてのキリスト教徒

(1)キリスト教信徒であることを絶対条件とするもの及び(2)キリスト教徒であることが望ましいとするもの、両者合せて入学時の12.1%から卒業時の14.1%

に僅かに上昇している。この数は洗礼を受けた信徒の割合22.8%には及ばないが、大体のところ信者になったものは、結婚の相手としてキリスト教徒を望んでいることは確かである。しかし卒業前の現実的感覚に基づいて、(3)の“必ずしもキリスト教信者でなくても良い”が大半を占めているのも理解できる。

R17 受洗をめぐる影響力としてのレファレンス・グループ

R17の主要な関心は学生のキリスト教的態度又はその形成に対するレファレンス・グループ（準拠集団又は関係集団）について知ることである。これを1年の時と4年の時について比較考察したいのであるが、この調査の結果だけからは、大なる変化は見られなかった。僅かに、両親の影響力が減じ、反対に友人の力がふえていることが示されている。このことの一般的傾向を知るためには資料が僅少に過ぎるのであるが、大体において妥当な線が現われているのである。

もう一つのことは、ここに掲げられた数個のレファレンス・グループ間の影響力の順位である。この点、入学時も卒業前もともに、教会が信仰形成のポジティブな準拠集団の中の最高であり、第1レファレンス・グループであることを示し、反対にネガティブなものとしては母又は父となっていることを示している。母の方が父より多いのは普通であるが、これも子女の内面的な問題については父が直接顔を出さないことが多いからであって、必ずしも父の方が子女の信仰特に洗礼問題について反対が少いとは断定できない。この点は他の方法で調査することが必要である。

これに就いて、われわれは昭和40年7月上旬にこれと関連のある他の調査^{注3}を行なったのでこの点に関わりをもつ資料として次のものを掲げたい。その中で一言したいのは、7の教会であるが、ポジティブの規範として1年12、2年21、3年17、4年14となっており、この中1年は入学直後の調査であるから、まだレファレンス・グループとして比較的微力であり、2年になると1年間の教育で相当上昇し、3年4年と上級になるにつれ他のレファレンス・グループとしての友人等が抬頭することにより、再び下降する傾向を示しているものと思う。

Table 20 レファレンス・グループと規範													
グループ	規範 学年	キリスト教に ポジティブ				中 立				キリスト教信仰 にネガティブ			
		大学 1	大 2	大 3	大 4	大 1	大 2	大 3	大 4	大 1	大 2	大 3	大 4
1. 父		2	2	1	2	6	1	8	7	12	6	7	7
2. 母		5	2	5	1	12	7	8	5	8	16	8	6
3. 家 族		2		1		2	2	2	5	3	2	3	
4. 親 戚				1				2	1		1		
5. 友 人		1	5	5	11	3	6	9		9	5	5	
6. 学校の先生		7	7	6		1	1	1	1				1
7. 教 会		12	21	17	14								
8. そ の 他		1		1	1							1	
計		30	37	37	46	24	17	30	32	32	30	24	19

R18, R20, R22 宗教教育に対する両親の態度

R18の学生の学校におけるキリスト教教育と、R20の教育へ出席するように奨励することと、R22の学生の洗礼に対する両親の態度を一緒に比較して考察することが興味深い。そこで、前掲の調査結果資料R18とR20とR22をもう少し簡略化して、三つを比較すれば次の如くであ。

R 18 学校におけるキリスト教教育に対する両親の態度

Table 21	入 学 後				卒 業 前			
	父		母		父		母	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 賛 成 [(1)+(2)]	83	45.6	127	69.7	63	36.8	94	55.0
2. 無関心	82	45.1	41	22.5	83	48.5	66	38.6
3. 反 対 [(4)+(5)]	1	0.5	8	4.4	2	1.2	2	1.2
4. 解らない [(6)+(7)]					10	5.8	6	3.5
NA	16	8.8	6	3.3	13	7.6	3	1.8
計	182	100.0	182	99.9	171	99.9	171	100.1

R 20 学生の教会出席に対する両親の態度

Table 22	入 学 後				卒 業 前			
	父		母		父		母	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 賛 成 [(1)+(2)]	57	31.3	84	46.2	39	22.8	57	33.3
2. 無 関 心	87	47.8	68	37.3	97	56.7	87	50.9
3. 反 対 [(4)+(5)]	11	6.0	12	6.6	9	5.3	12	7.0
4. 解らない [(6)+(7)]	14	7.7	12	6.6	12	7.0	11	6.4
NA	13	7.1	6	3.3	14	8.2	4	2.3
計	182	99.9	182	100.0	171	100.0	171	99.9

R 22 学生の受洗に対する両親の態度

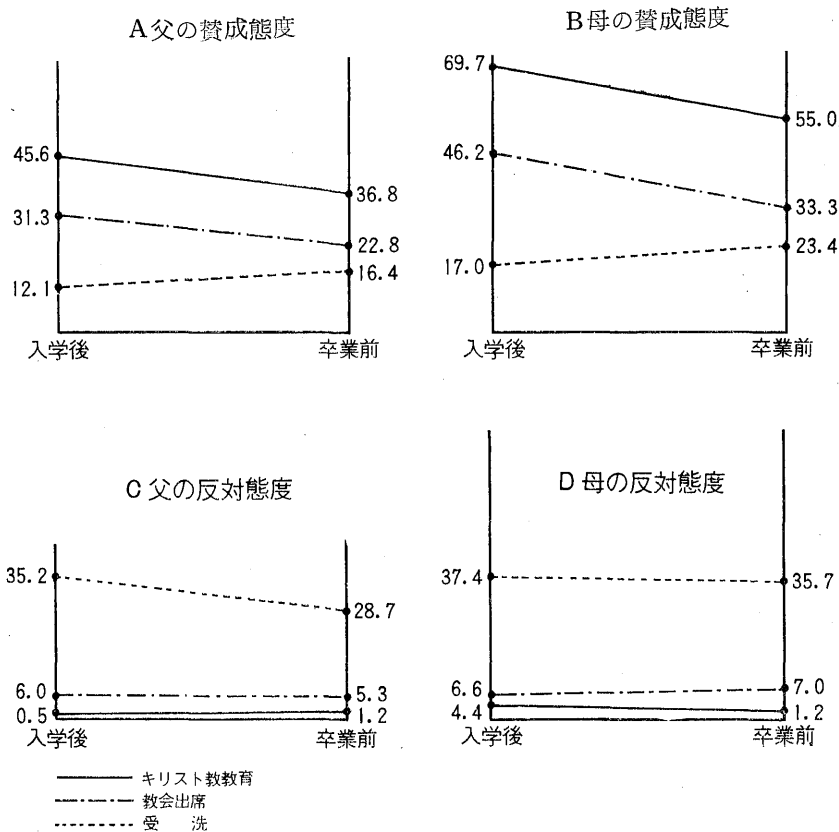
〔A信者+B未信者〕

Table 23	入 学 後				卒 業 前			
	父		母		父		母	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. 賛 成	22	12.1	31	17.0	28	16.4	40	23.4
2. 無 干 渉	66	36.3	64	35.2	71	41.5	58	33.9
3. 反 対	64	35.2	68	37.4	49	28.7	61	35.7
4. 解らない	4	2.2	2	1.1	2	1.2		
NA	26	14.3	17	9.3	21	12.3	12	8.3
計	182	100.1	182	100.1	171	100.1	171	100.0

上記の表で見るならば、(1)学校の宗教教育に対する両親の態度、(2)学生の教会出席奨励と、(3)学生の受洗に対する態度との比較において、`賛成`は(1)(2)(3)の順になっており、`反対`はその逆で(3)(2)(1)の順になっている。又、これらを入学後と卒業前と比較するならば、R18とR20とはともに、`賛成`が下降し、`反対`も全体としてはやや下降し、`無干渉`が上昇している。このことは学生が高学年になるほど、両親の学生に対する主体性尊重の度が増大する傾向を示すものであろう。又、受洗という問題については両親とも、単に学校で宗教教育を受けることとか、教会に行くことと較べて、反対が強いのであるが、この受洗の問題についてさえ、学生が高学年になるほど両親の`賛成`と`無干渉`の態度が大体において増しているのは子供の意志を尊重する傾向の強なることを示しているものと思われる。

今、これらについて、特に両親の「賛成」と「反対」とに関する比較を表で示せば次のとおりである。

Fig1 父及母の入学後と卒業前におけるキリスト教教育・教会出席・受洗に対する態度の比較表



R27 神社・仏閣への参拝

(1) 「お宮やお寺にお参りしない」というものの率が入学後に較べて卒業前には増している。これに対して、(3)の「敬意を表するため参る」や(4)の「慣習として」、(5)「家族や近所のつきあいで」というのがふえているのは卒業期が近付くにつれて社会への適合性が増大するためであろう。(2)の「信仰の上で参拝する」というのは、入学後よりも卒業前の方が少し増しているが、これも信仰別の内訳を見ると、キリスト教信者又は求道者には全然なく、「関心はあるが信じている宗教なし」と「その他の宗教」というものに少数のものが認められた。キリスト教徒又は求道者でも社会的慣行や社交上で参拝するものは少ない。いまそれらの実態を表で示せば次のとおりである。

R 27 神社・寺院参拝の内訳（卒業前のもの）

Table 24	神 社				寺 院			
	F 3 本人の宗教				F 3 本人の宗教			
	1. キリスト教信者及求道者		2. 関心はあるが信心している宗教なし		1. キリスト教信者及求道者		2. 関心はあるが信心している宗教なし	
	N	%	N	%	N	%	N	%
1. お宮やお寺にお参りしない	21	50.0	43	36.4	19	45.2	45	38.1
2. 信仰の上で参拝する			1	0.8			1	0.8
3. 敬意を表するために参る	2	4.8	4	3.4	2	4.8	6	5.1
4. 慣習として参る	9	21.4	42	35.6	8	19.0	26	22.0
5. 家族や近所のつきあいで参る	9	21.4	19	16.1	12	28.6	19	16.1
6. 家族のものからいわれるので参る			3	2.5			1	0.8
7. 近所や地域の人からいわれるので参る	1	2.4						
0. D.K.	1	2.4	8	6.8	1	2.4	20	16.9
計	42	※	118	／	42	100.0	118	100.0

※ 神社については1人で幾つも答えた人があるので%の合計は100にならない。

R28 キリスト教信仰上の影響力

これは前述のR17のレファレンス・グループと関係があることであるが、特にここで注目すべきは、

入学後と卒業前を見ると、他からの影響力は総体に低下しており、これに反して、自分自身の考えによるというものが倍加していることである。又、キリスト教信仰に関する影響力一般といえば、テレビその他のマス・コミ等も大きくとりあげねばならないことである。更に、レファレンス・グループとしては洗礼問題に関しては教会が筆頭であったが、キリスト教信仰一般ということに関しては、学校が第一レファレンス・グループとなっていることも注目すべき点である。

R29 信仰の動機

この点入学時と卒業前とではあまり大きな差は見えないが、(4)の「何か永続的なものをつかみたい気持ちから」というのが5.5%から8.8%にふえている。又数的には(1)の「人間形成のため」と、(5)の「自分の弱さ又は罪の自覚及びそれからの救い」というのが多い。これらの傾向は健全な宗教意識の形成の動機と見られるのである。(3)の「友人や近親者の死や不幸に直面して、というのが零であり、このような人生の大きなショックによるよりも、やはり比較的順調な教育的過程を通じての信仰形成の類型が圧倒的であると考えられる。

R30 キリスト教精神を分ち与えるための貢献

この質問に対する答えはむしろ低下の傾向を示している。その理由は卒業前になると、それぞれ将来の計画が具体化しているので、「キリスト教の精神を多くの人々に分ち与えるため」の仕事ということになると実際問題として考えざるを得ないためであろう。しかし、これらの中のクリスチャンの数が15.8%であるから、それとの比較で見れば「貢献したい」が30.4となっているのは可成り高率である。

R31 現在のキリスト教の存在意義

ここでは入学の時と較べて卒業時に意義を認めるものが52.7から71.9%と増加し、否定するものは26.4から19.3%に減少している。有害と考えるものは零になっている。それでは、いかなる意味でその意義を認めているのであるか。次にその内容を見たい。

Table 25

1. “あると思う”の内訳

	種 類	N	%
イ 自 分 の た め	1. 人生観に影響を与える	17	13.8
	2. 判断の基準となる	8	6.5
	3. 人格形成に役立つ	33	26.8
	4. 精神的支えを与える	17	13.8
	5. 絶対者及び霊的なものを知る事ができる	6	4.9
	6. 救いが与えられる	3	2.4
	7. 自己の存在の意味を与える	5	4.1
	8. キリスト教の愛の精神の影響を受ける	8	6.5
	9. 何となくひかれてはなれられない	5	4.1
	10. 世界観として意義がある	5	4.1
	11. 西洋史の理解に意義がある	2	1.6
	12. 宗教を教えてくれる	1	0.8
	0. D.K.	22	17.9
計 ※		(123)	
ロ 社 会 に と っ て	1. 社会福祉に役立つ	11	8.9
	2. 世界平和の為に役立つ	13	10.6
	3. 社会の道徳的規範の向上に役立つ	16	13.0
	4. 人間関係を円満にする	7	5.7
	5. 社会が良くなる	5	4.1
	6. 社会の多くの人を救い、精神生活の向上をはかる	17	13.8
	7. 宗教の1つとして必要である	3	2.4
	8. 児童教育に貢献する	1	0.8
	0. D.K.	51	41.5
計 ※		(123)	

※ 1人で2つ以上を答えた人がいるので、%合計は100にはならない。

R32 現在のキリスト教に望むこと

最後のこの問いに対しても肯定の数が入学の時に比して卒業前倍加し、否定的なものが半減している。これも、四年間のキリスト教主義教育の結果を示し

ていると思う。そして、キリスト教に対する期待又は希望は、四年前「現実に即して伝道せよ」。^(注4)「愛の社会的実践」が最も多かったが今般も「現実と遊離せず、社会にとけこむ」が27.8%で最高であった。次にその諸内容を瞥見したい。

Table 26			
現在のキリスト教への期待内容の内訳			
種	類	N	%
1.	世界連帯意識の高揚を望む	2	2.2
2.	信者のエリート意識をなくす	9	10.0
3.	偽善者を作らないように望む	4	4.4
4.	形式にこだわらないように	12	13.3
5.	日本人の精神生活にとけ込むこと	8	8.9
6.	教会の統一	8	8.9
7.	現実と遊離せず社会にとけこむ	25	27.8
8.	広い布教を望む	9	10.0
9.	教会のからにとじこもらない	11	12.2
10.	生き生きした情熱の強化	4	4.4
0.	D.K.	3	3.3
計 ※		(90)	

※ 1人で2つ以上答えた人があるので、%の合計は100にならない。

結 論

以上で考えられることは、女子大学生の宗教意識に対して、その教育的環境の及ぼす影響はかなり強いということである。もちろん学校が唯一の影響力であるのではないが、宗教的教育の効果がその他の諸要素と相まって相当顕著であるということが実証されている。しかし、そのことは、つねにどこでも同じ程度の妥当性をもつものであるかどうかは、なお論議を要することであり、同じくキリスト教主義学校といっても、その教育方法又は、その規模の大小などにより目指す教育の効果は異なるであろう。

又、教育の効果或は影響は顕著であるが、しかも、学内の礼拝出席であるとか、教会への出席等、学校側からの何らかの形での拘束力が働いている分野においては、上級になるほどその拘束性から独立に向う傾向が顕著であるのも注目すべきことである。

注1 雀部猛利、溝口靖夫、難波紋吉、キリスト教主義女子大学生の生活態度における民主化の度合に関する実証的研究、神戸女学院大学論集8巻3号、9巻1号、9巻3号、溝口靖夫、雀部猛利、難波紋吉「キリスト教主義女子大学学生の宗教意識についての実証的研究」神戸女学院論集、同上。

注2 昭和36年の神戸女学院大学新入生数は225名となっているが（8巻3号P.2）これは定員数であるので実数はこれより多かった。従って4年後に学生数がふえたのではない。

注3 本論集次号掲載の予定

注4 本論集8巻3号、91頁

（本論文作製の基礎となった前後2回の調査に当っては、本大学社会学研究室の関係者、特に難波紋吉、雀部猛利、西山美咲子の諸氏の御協力を得たことを付記して感謝したい。）

Mizoguchi, Yasuo

“Religious Consciousness of the Students and their Educational Environment”

Résumé

In this report we made a comparative study of religious consciousness of freshmen and seniors in Kobe College. The survey was made twice: the first in 1961 just after the students entered the college and the second in 1965 just before their graduation. The group of students we had for both surveys was the same, though some persons of the group changed.

During these four years their consciousness of Christianity showed change in several aspects. As a whole, we can see some advance in their Christian beliefs. It means the school as their educational environment has had a great effect upon the formation of their faith.